

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	教授	柿原聖治
最終学歴	学 位	専門分野
広島大学大学院 教育学研究科 単位取得満期退学	教育学修士	理科教育、算数教育

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に沿うような人材の育成に努める。
また、「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」を踏まえて、「教育活動」「研究活動」「大学運営」「社会貢献」を行う。

【目標】

一人ひとりの学生を大切にし、親身になって寄り添い、学生の学業成績の向上に努める。
大学の運営がスムーズにできるように努力し、学生の満足度が上がるようにする。

【方針】

大学が地域社会から信頼され、社会に貢献する教育機関になるよう、研究・活動を行う。
最終的には入学定員の確保につながり、大学が更に発展するよう努力する。

【計画（方法）】

講義では、学生一人ひとりが自分たちで実験や制作活動ができるよう、教材や道具を学生の人数分だけ準備し、学生が自由に活動・学習できる環境づくりを行う。「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」に基づき、学生の主体性を引き出すようにする。その際、安全には十分配慮する。

空き時間にはできるだけ研究室を開放する。教員採用試験の勉強の支援を行い、困っている学生をできるだけ多く救い、教員採用試験に1人でも多く合格させるようにする。

【担当科目】

（前期）

サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、数理の世界、生活、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、総合演習Ⅰ、理科

（後期）

サービス・ラーニング実習Ⅱ、基礎演習Ⅱ、生活科教育法、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、総合演習Ⅱ、卒業研究、理科教育法

○教育方法の実践

講義「数理の世界」で、コンパスと定規を使った数学的活動を考え、実践し、論文としてまとめた。

○作成した教科書・教材

各講義で使うスライドを更新して、教材として活用している。

○自己評価

4年のゼミ生の1人が公立保育園の採用試験に合格し、2人が小学校の採用試験に合格し、教諭になった。

講義「基礎演習」では、ゼミ生の全員がよく活動して、優秀な成績を全員に与えることができた。

講義「数理の世界」では、学生の生の反応を確かめながら、次回の内容を練り直し、オンラインのときとは違う手応えを感じることができた。

総じて、実りのある1年だった。

II 研究活動

○研究課題

理科の実験教材づくりと、算数的活動の開発

○目標・計画

【目標】

理科の授業が楽しくなるような実験を取り上げ、その教材開発を行う。

算数・数学でも、理科実験と同様に、道具を使った具体的な活動ができるような数学的活動を開発していく。

【計画】

普段の講義の中で、学生が誤答したり難しいと言ったりする内容を見だし、その解決のために教材研究を行う。その際、具体的な道具を使って視覚的・感覚的に理解させる教材開発を行う。折り紙の利用やコンパスを使った作図などを多く取り入れ、楽しい算数・理科にする。

○2016年4月から2024年3月までの研究実績（特許等含む）

（著書）

- ・白井克尚、今津孝次郎、山本かほる、伊藤数馬、丹下悠史、水野正朗、柿原聖治、西崎有多子、『教員養成におけるアクティブ・ラーニングの実践研究』、唯学書房、2024年
- ・今津孝次郎、西崎有多子、白井克尚、中島弘道、新實広記、伊藤龍仁、柿原聖治、伊藤数馬、『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』、2019年、唯学書房

（学術論文）

- ・白井克尚、柿原聖治、鈴木順子、堀建治、堀篤実、「保幼小接続・連携を担う保育士と教員養成の実践—教育学部・総合演習における森林環境教育を目指したプロジェクト型学習を通じて—」、『東邦学誌』、52巻、1号、p. 47-63、2023
- ・柿原聖治、「三つ輪の作図から始める図形の指導」、2023、『東邦学誌』、52巻、1号、p. 65-71
- ・KAKIHARA Seiji, 「Methods of Constructing the Golden Section」, 『Mathematics in School』、May、Vol. 51、No. 3、pp. 20-21、2022
- ・柿原聖治「黄金比と正多角形の作図法」、2021、『東邦学誌』、第50巻 第2号、pp. 47-51
- ・柿原聖治「黄金比の学習—数学的活動—」、2020、『東邦学誌』、第49巻 第2号、pp. 59-64
- ・柿原聖治「錯覚や意外性を取り入れた図形の指導—小学校の数学的活動—」、『東邦学誌』、第47巻 第2号、pp. 33-43、2018
- ・柿原聖治「作図によるルーローの三角形、正六角形づくり—算数的活動—」、『東邦学誌』、第47巻 第1号、pp. 49-56、2018
- ・柿原聖治「パズル作りを取り入れた算数的活動」東邦学誌 第46巻 第2号、p. 105-112、2017
- ・柿原聖治「正四角錐、正四面体を折り紙で作る方法とその利用」東邦学誌 第46巻 第1号、p. 119-126、2017
- ・柿原聖治「正三角形を折り紙で作る方法の実践的研究」東邦学誌 第45巻 第2号、p. 117-124、

2016

- ・柿原聖治「燃焼の仕組みを理解させる一火おこし器で発火させる方法を通して」東邦学誌 第45巻 第1号、p.73-78、2016

(学会発表)

- ・白井克尚・柿原聖治・鈴木順子・堀建治・堀篤実、「幼小接続を見据えた森林環境教育を担う教員の養成一教育学部総合演習におけるフィールドワークを通じて」、初等教育カリキュラム学会 第7回大会 広島大学東広島キャンパス、2023年1月8日

(特許) なし

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

なし

○所属学会

日本理科教育学会、日本物理教育学会、Mathematical Association

○自己評価

サービス・ラーニング関連で本学の先生方と共同で論文・著書を著すことができ、良かった。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

大学の発展のために、真面目に努力して貢献する。信頼して事を任せられた職務は、全力を挙げ、まっとうする。大学運営がスムーズになるように努力を怠らない。

【計画】

入学する学生数を十分に確保するため、高校生のニーズを読み取り、大学の広報に努める。
創立100周年事業に向けて貢献する。

○学内委員等

○自己評価

大過なく無事に終わったので安堵しているが、もっと大学に貢献すべきだと思っている。
各県の教員採用試験の問題を日々解いているので、入試問題作成には自信を持つことができ、できたときの達成感を味わうことができた。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

教育現場に求められているニーズを読み取る。それに応えるには何ができるかを考え、できることから実践していく。学生がサービス・ラーニングができる素地を増やしていく。

【計画】

大学連携講座を日進市と行っているので、今年も理科実験・算数的活動について講座を持つ。
小学校や幼稚園・保育園などと連携をもっと探り、その充実を図る。

○学会活動等

なし

○地域連携・社会貢献等

名東文化小劇場で、サービス・ラーニングを行うのを手助けした。

○自己評価

各小学校や名東文化小劇場で地域連携を行い、それなりの手応えがあった。

V その他の特記事項（学内研究、受賞歴、国際学会交流、自己研鑽等）

VI 総括

本学の先生方から多くの援助を得て、書籍・論文を出すことができ、感謝・満足している。

全体として、大過なく年度を終えたが、さらなる努力をして、大学に貢献すべきだと思っている。

以 上